

2025
2.15

NEWS

CIT

千葉工業大学 入試広報部
CHIBA INSTITUTE OF TECHNOLOGY〒275-0016
千葉県習志野市津田沼2丁目17番1号
TEL 047(478)0222
FAX 047(478)3344

[NO.692]

校章は、創立直後の昭和17年、公募によって制定され、平成4年、創立50周年に伴い、商標登録されました。新しいNEWS CITはスクールカラーの「紫紺」をベースに、さわやかなスカイブルーカラーでお届けします。



A日程入学試験1日目(2月1日) 試験会場の様子

<https://www.it-chiba.ac.jp/>

令和7年度共通テスト、A日程入試、無事に終了

1月13、14日の令和7年度共通テストを皮切りに、全国で入学試験シーズンに突入しました。大学入試センターの発表によれば、今年の志願者数は49万5000人で、前年度から約3000人の微増となりました。また、今回から新しい教科として「情報」が導入されました。

本学試験会場では1900人を受け入れ、両日とも特にトラブルなく終了しました。本学の共通テスト利用入学試験(前期)の志願者数は、6万252人で、昨年度5万4480人から5772人の増加となりました。また、A日程、SA日程入学試験が2月1～4日の4日間、津田沼試験場と今年度新たに那覇会場を追加し、全国18試験会場(2月1、2、3日のみ・那覇会場は2日のみ)で実施しました。

天候不良や交通機関の乱れなどのトラブルはなく、試験は無事に終了。今年度のA日程志願者数は3万3869人(昨年比1523人減)、SA日程では1万645人(昨年比450人減)という結果となりました。

P2 超小型衛星ASTERISC、宇宙塵探査ミッションを完遂／超小型EVのラッピングデザインを考案。デザインの力で社会貢献をめざす

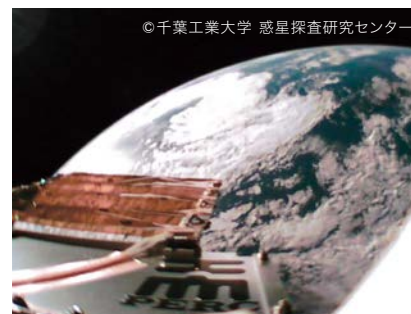
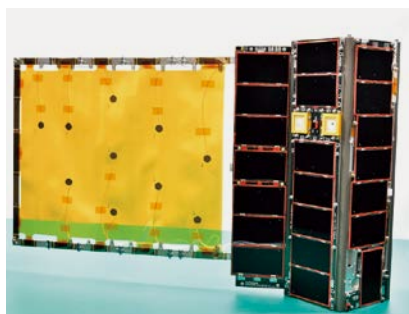
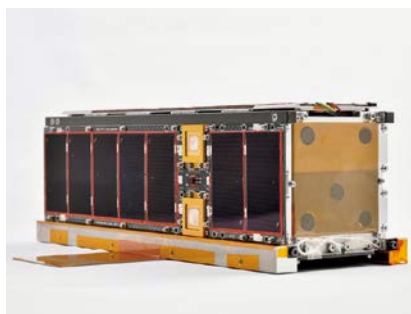
P3 永島さんが土木学会全国大会で「優秀講演賞」を受賞／猪狩さんがDICOMO2024で「優秀論文賞」を受賞／大山さんがスポーツ庁 スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション2024で「優秀賞」を受賞／林さんが日本建築学会「若手優秀発表賞」を受賞

P4 齊藤さんが「優秀口頭講演賞」を受賞／スパジャム道場2024で「最優秀賞」を受賞／入江清主席研究員が計測自動制御学会システムインテグレーション部門「研究奨励賞」を受賞／本保教授が軽金属学会「功労賞」を受賞

P5 第42回 祝勝・奨励会を開催

P6 新設「伊藤穰一賞」 課外活動の価値を再認識／コラム

超小型衛星ASTERISC、宇宙塵探査ミッションを完遂



©千葉工業大学 惑星探査研究センター

千葉工業大学惑星探査研究センター（PERC）が開発した超小型衛星2号機ASTERISC（アスタリスク）は、2025年1月21日に軌道離脱・大気圏へ突入し、3年2か月にわたる運用を終了しました。ASTERISCは、宇宙塵や微小スペースデブリの観測を目的とする3Uサイズ（30cm×10cm×10cm）のキューブサットで、PERCが独自に開発した膜型ダストセンサーを搭載していました。

膜型ダストセンサーは、粒子が膜面に衝突することで発生する波を特殊な素子で電気信号として検出し、独自の信号処理を行うことでリアルタイムに粒子を観測する技術です。本センサーは、膜の面積を広げることで簡単に大面積化が可能であり、数が少ない宇宙塵や微小スペースデブリの観測に適しています。ASTERISCはこの技術を用いた世界初の宇宙塵探査衛星として、軌道上での実証に成功しました。

運用開始後、ASTERISCは膜型ダストセンサーの展開と粒子観測に成功し、その後の定常観測フェーズでは、低消費電力の磁気トルカを用いた

スピン安定姿勢制御を確立しました。これにより、センサーを特定の方向に向けた状態で長期間観測を行い、高精度なダストデータを取得しました。さらに、数百kbps～数Mbpsの高速ダウンリンクによって取得した波形データの詳細解析を進めており、現在論文を準備中です。ASTERISCは、超小型衛星ながら姿勢制御や高速通信を伴う本格的な理学ミッションを遂行し、将来のより高度な探査ミッションへの応用が期待されています。

今回、宇宙実証された膜型ダストセンサーは、圧電素子やポリイミド膜などの実績ある部品を用いたシンプルな構成で、従来の粒子観測装置と比べて大幅なコスト削減が可能です。また、ソーラーセイルや衛星用断熱材などに容易に組み込めるため、今後の幅広い応用が期待されています。直近では、2026年度に打ち上げ予定のJAXA火星衛星探査機MMXにおいて、膜型ダストセンサーの技術を活用したダストカウンターCMDMが搭載される予定です。CMDMは1m²の大面積センサーを実現し、火星周回ダストリングの発見をめざします。

超小型EVのラッピングデザインを考案 デザインの力で社会貢献をめざす



「クロススケ」を囲んで記念撮影

デザイン科学科・西田研究室は、株式会社サカイ引越センターおよびnicomobi株式会社と共同で、1月6日から10日の5日間、都内で超小型EV『クロススケ』プロトタイプを法人営業車として活用するための体験運用を実施しました。

産学連携の一環として行われるこのプロジェクトには、本学の学生も積極的に参加し、デザインや運用の視点から次世代モビリ

ティの可能性を探っていきます。

本プロジェクトは、nicomobiが推進する『クロススケと共創・協業』プロジェクトの第一弾として位置づけられており、サカイ引越センターが実際の営業活動の中で『クロススケ』を運用し、その実用性を検証するもの。西田研究室は車両のラッピングデザインを担当し、本学の学生が主体となり、「こっち見てクロススケ」というテーマでデザインを考案。愛らしく親しみやすいパンダのキャラクターをいかしつつ、引越に関わるモチーフを取り入れることで、サカイ引越センターのブランドイメージとも調和させました。

プロジェクトリーダーの東海林拓真さん（4年）は、「昨年のジャパンモビリティショーでの発表に向けた取り組みが実を結び、大変嬉しく思います。学生チームは企画の初期段階から携わり、自由な発想でデザインを考案しました。コンペ形式で選ばれたデザインは、サカイ引越センター様とnicomobi様のコラボレーションを際立たせるものとなりました。街で車両を見かけた際には、『まごころパンダ』と『クロススケ』が描く未来への想いを感じていただければ幸いです」とコメントしています。

西田研究室では、これまでもデザインの力で社会に貢献する取り組みを進めてきましたが、今回のプロジェクトはその集大成の一つです。学生たちにとっても、企業との連携を通じて現場の課題解決に貢献する貴重な経験となっています。

永島さんが土木学会全国大会で 「優秀講演賞」を受賞



都市環境工学専攻修士2年の永島啓介さん（橋本紳一郎研究室）が、9月2日～6日に東北大学川内北キャンパスで開催された令和6年度土木学会全国大会第79回年次学術講演会において、優秀講演賞を受賞しました。研究テーマは「自己充填覆工構築システムに対する圧送管内圧力による充填性評価の検討」です。

近年、建設業界では作業員の高齢化や少子化に伴い、自動化技術の導入が進んでいます。永島さんはトンネル施工の自動化に着目し、セメント下部から自己充填コンクリートを圧入する工法の充填性評価を行いました。圧送管内の圧力データを解析することで、型枠内の充填性や充填完了の目安を把握できることを示唆し、さらに自動化施工による作業員削減や省力化の可能性を示しました。

永島さんは「将来的に実用化されるかもしれない工法の研究が評価され、大変うれしく思います。また、大規模な実験や計測の機会を提供してくださった先生方や企業の皆様、共にデータ整理を行った研究室の皆さんに感謝しています」と喜びを語りました。

猪狩さんがDICO2024で 「優秀論文賞」を受賞



情報ネットワーク学科4年の猪狩紫雲さん（駒野雄一研究室）が、昨年9月20日、岩手県花巻市で開催されたDICO2024（マルチメディア、分散、協調とモバイルシンポジウム）において、情報処理学会「優秀論文賞」を受賞しました。

論文題目は「巡回セールスマン問題の物理的ゼロ知識証明プロトコル」。情報セキュリティの分野では、解答を直接明かさずに正当性を証明する「ゼロ知識証明」という技術が活用されています。猪狩さんは、トランプのようなカードを用いて情報を符号化し、カード操作のみでゼロ知識証明を行う「物理的ゼロ知識証明」に関して、巡回セールスマン問題に対する世界初の方法を実現した点が評価されました。

猪狩さんは、「外部の方から評価される機会は少ないので、今回の受賞はとても嬉しいです。また、駒野先生や、共同研究者である東北大学の水木先生のお力添えのおかげで受賞できました。前回のプレゼンテーション賞に続く受賞となり、自分でも驚いています。この経験を励みに、今後も暗号やセキュリティの研究に精力的に取り組んでいきたいです」と喜びを語りました。

大山さんが スポーツ庁 スポーツ・健康まちづくりデザイン 学生コンペティション2024で「優秀賞」を受賞



デザイン科学科1年の大山瑛さん（あきら）が、昨年11月6日に日本橋室町三井ホール&カンファレンスで開催された「スポーツ・健康まちづくりデザイン学生コンペティション2024」にて優秀賞を受賞しました。本コンペは、まち全体をスポーツに親しめる空間とするための学生アイデアを募るもので、全国から集まった45点の応募の中から選ばれました。

大山さんの提案は、「公園管理×カフェ」というアイデア。運動嫌いの多くが「苦手意識」を理由に挙げることに着目し、公園管理という協力的な活動を通じて、無理なく運動できる仕組みを考案しました。さらに、公園管理の参加者がカフェを運営することで、運動とリラックスを組み合わせた新たな空間を提供するという提案が高く評価されました。

審査員からは、「公園管理に着目した点が良かった」と講評があり、大山さんは、「受賞できてとても光栄です。これを励みに、今後も自信を持って勉学に励んでいきたいです。二次審査のために助言をくださった引原先生、プレゼン練習に付き合ってくれた友人に感謝しています」と喜びを語りました。

林さんが日本建築学会 「若手優秀発表賞」を受賞



建築学専攻修士課程1年の林慶人さん（石原沙織研究室）が、昨年11月8日、「2024年度日本建築学会大会（関東）学術講演会」において、材料施工部門若手優秀発表賞を受賞しました。本賞は、特に優れた研究発表を行った若手研究者に贈られるもの。

林さんの研究テーマは、「省力化工法の加硫ゴム系シート防水（EPDMゴムシート）の接着性と耐疲労性」に関するもので、防水工事の省力化に焦点を当てています。少子高齢化による人手不足が深刻化する建築業界において、施工の自動化が難しい防水工事の省力化により、施工の効率化をめざしています。研究では、従来工法と省力化工法の比較を行い、防水性能の指標となる接着性と耐疲労性を評価しました。

林さんは、「このたびの受賞にあたり、指導教員の石原先生、共同研究先の企業の皆様、そして研究室の仲間に感謝しています。また、フォークダンス部での活動や、好きなインテルミラノの存在が私生活を充実させ、そのおかげで研究にもより一層取り組むことができました。今後も研究に励んでいきます」と喜びを語りました。

齊藤さんが 「優秀口頭講演賞」を受賞



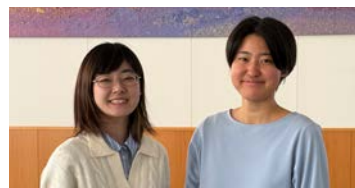
いぶき
応用化学専攻1年の齊藤生歩季さん(松田泰明研究室)が、2024年11月30日に材料技術研究協会より「優秀口頭講演賞」を受賞しました。

齊藤さんの研究テーマは「水処理用TiO₂セラミックスの最適な合成条件の検討」。環境調和型の水質浄化技術の開発をめざし、光触媒の受光率を高めることで、水中での殺菌力の向上を図る研究を行いました。光触媒は水処理技術として有望視されていますが、より効果的な機能を発揮するためには合成条件の最適化が重要です。齊藤さんの研究は、この課題に対し新たな知見を提供し、高く評価されました。

材料技術研究協会は、材料科学・技術の発展を目的とし、産業や国民生活の向上に寄与する学術団体で、同研究は、環境負荷の少ない水処理技術の実用化に向けた貢献が期待されます。

齊藤さんは、「このような素晴らしい賞をいただき、大変光栄に思います。学会発表を通じて、多くの方から貴重なご意見をいただき、自身の研究をさらに深めることができました。また、研究内容をより理解してもらえよう、何度も試行錯誤しながら発表練習を行ったことが実を結んだと感じています」と喜びを語りました。

スパジャム道場2024で「最優秀賞」を受賞



左から
川口さん、大浦さん

電気電子工学科2年の川口真奈さんと情報通信システム工学科2年の大浦空さんが、昨年11月2日から3日にかけて開催された「スパジャム道場2024」において最優秀賞を受賞しました。「スパジャム道場2024」は、一般社団法人モバイル・コンテンツ・フォーラムが主催する学生向け育成型ハッカソンであり、参加者は24時間以内にアプリを開発することが求められます。今年の大会では「選挙」というテーマが設定され、参加者は限られた時間の中で創造的なアイデアと技術力を発揮しました。

川口さんと大浦さんは、「こしひかりSDV」というチームの一員として、デザイナー4名、エンジニア2名の計6名で大会に臨みました。開発したアプリ「ギャル×政治 それ、マ？～ギャルリンガル～」は、政治に関心の薄い若者層にも分かりやすく政治の知識を届けることを目的とした対話型アプリです。開発にはMonacaという環境を使用し、HTML、CSS、JavaScriptを活用しました。また、ChatGPT APIを組み込むことで、ギャルのキャラクターと対話しながら政治について学べる仕組みを実装しました。

審査員からは「ユニークなコンセプトと実装の完成度の高さ」が評価され今回の受賞となりました。川口さんは「今回の受賞を通じて自信ができました。チームの皆さんと楽しく開発できたことに感謝し、今後も成長をめざします」。大浦さんは「初対面のメンバーと24時間で開発する挑戦が評価され、大変励みになりました。今後も大会に挑戦し、技術を磨いていきます」と話しています。

入江清主席研究員が計測自動制御学会 システムインテグレーション部門 「研究奨励賞」を受賞



未来ロボット技術研究センターの入江清主席研究員が、計測自動制御学会システムインテグレーション部門より「研究奨励賞」を受賞し、昨年12月19日、ホテルメトロポリタン盛岡で授賞式が行われました。

本賞は、同学会が共催する「第29回ロボティクスシンポジウム」にて発表した論文「深層学習によるEnd-to-End IMUオドメトリは何を学習するのか」が優秀であると認められたもの。IMU(慣性センサ)のデータだけからロボットの移動量を推定することは非常に難しい問題でしたが、近年深層学習を利用することで、ある程度実現する手法が登場してきました。

一方、このような手法がなぜ、どのように働いて実現できているのか詳細はよく分かっていませんでした。この論文ではこれに対して学習が働くための条件や限界などを様々な実験を通して明らかにしました。

入江研究員は「純粋な興味から始めた研究でしたが、評価をいただけて大変うれしく思います。この知見がロボットをはじめとするさまざまな位置推定技術の発展に貢献することを願っています」と話しています。

本保教授が 軽金属学会「功労賞」を受賞



先端材料工学科の本保元次郎教授が、一般社団法人軽金属学会(会長：平野清一)より「功労賞」を受賞しました。本賞は、同学会の発展に長年貢献した個人に贈られるもので、本保教授は副会長、理事、監事、部会委員長、関東支部長などを歴任し、学会の運営に尽力。軽金属に関する研究や論文投稿も行ってきましたが、今回の受賞は主に学会活動への貢献が評価されたもの。なお、研究功績については、2021年に「軽金属功績賞」を受賞されています。

授賞式は2025年5月16日、北九州国際会議場(北九州市)で行われる予定です。本保教授は「これまでの学会活動が評価されたことに感謝しています。偶然にも定年退職の時期と重なり、何か不思議なご縁を感じます。今後は、少し距離を置きながらも、引き続き学会の発展に貢献できればと思います」と述べています。

※ 軽金属学会は、1951年に発足した日本唯一の軽金属に関する学術団体で、アルミニウム・マグネシウム・チタンなどの研究・技術発展を推進し、工業の発展に寄与しています。



全員で校歌斉唱。ステージ上にはアカベラサークル



瀬戸熊理事長と懇談する学生たち



和やかな懇親会会場にて

第42回 祝勝・奨励会を開催

学内外の競技会や文化活動で優れた成果を収めた学生団体を表彰する「第42回 祝勝・奨励会」が、1月23日に津田沼校舎2号館3階大教室で開催されました。今年度は、体育会5クラブ、文化会8クラブの計13クラブが表彰され、その栄誉が称えられました。

学生委員長の安藤雅和教授(デジタル変革科学科)、瀬戸熊修理事長、伊藤穰一学長が挨拶したのち、前田修作常務理事の音頭で乾杯が行われました。

瀬戸熊理事長は、挑戦し続ける学生たちを称え「困難な時代でも努力を惜しまず挑戦し続けることが大切」と祝辞を述べ、さらなる活躍に期待を寄せました。

その後の成績報告では、伊藤学長から直接表彰状を受け取り、学生たちは仲間の健闘を称え合い、教職員と懇談しながら喜びを分かち合いました。

(6ページに続く)

種別	所属	クラブ名	主将・部長等	部員数	祝勝奨励事由		実施日	
祝勝	体育会	空手道部	竹内 匠 [PM3]	32名	第37回全日本理工科系学生空手道選手権大会	【優勝】男子団体形… 風間 翔英[PM3]、堀 颯斗[電電2]、西田 修都[経テ1] 【全国大会出場】男子団体組手	令和6年 9月29日(日)	
					第66回 全国空手道選手権大会	【全国大会出場】男子個人形 / 男子団体組手(第3位) / 男子団体形(第3位)	令和6年 7月6日(日)～7日(月)	
					第68回 全日本学生空手道選手権	【全国大会出場】男子個人組手 / 男子個人組手	令和6年 7月7日(月)	
					第68回 全日本大学空手道選手権大会	【全国大会出場】男子団体形 / 男子団体組手	令和6年 11月17日(月)	
					船越芳珍杯 第16回 青少年少女世界選手権大会	【世界大会出場】男子個人組手 / 男子団体形(第3位)	令和6年 10月25日(金)	
		弓道部	矢澤 輝 [応化3]	14名	第72回 全日本学生弓道選手権大会	【全国大会出場】男子団体戦 / 女子団体戦	令和6年 8月22日(木)～24日(土)	
		自動車部	三橋 拓実 [機械3]	32名	全日本学生 ダーツトライアル選手権大会	【全国大会出場】新車両クラス男子団体の部(第3位)	令和6年 8月4日(日)	
					全日本学生 ジムカーナ選手権大会	【全国大会出場】男子団体の部	令和6年 8月25日(日)	
		柔道部	平川 陽大 [材料3]	34名	第65回 全日本理工科系学生 柔道優勝大会		【優勝】女子の部 個人… 本山 小恭[金融3] 【優勝】男子団体… 平川 陽大[材料3]、木内 乾舟[電電3]、 佐野 翔太[知能3]、深瀬 皓也[PM2]、石井 隆太郎[生命1]、 高橋 陸翔[応化1]、佐野 健太[知能1] 【優勝】男子無段の部 個人… 檜山 和幸[機械1] 【全国大会出場】男子有段(軽量)の部 個人 / (重量)の部 個人 【全国大会出場】男子有段	令和6年 6月23日(日)
	文化会	写真部	鈴木 育未 [生命3]	108名	フォトマッチインターカレッジ (2024)東日本大会	【優勝】団体	令和6年 9月15日(日)	
		航空工学研究会	吉田 尊 [未口2]	25名	MathWorks Minidrone Competition - ICRA 2024	【世界大会出場】団体	令和6年 5月16日(木)	
精密ロボット 工学研究会		大村 准一 [未口3]	67名	第33回 Robot Competition Series"BRAVE"	【優勝】個人… 小野 秀和[未口4] / 全国大会出場 団体	令和6年 9月23日(月)		
総合工学研究会		齋木 壮心 [未口3]	23名	ロボット・アスリートCUP 2024 (ROBO-ONE Light)	【優勝】個人… 稲葉 健[未口4]	令和6年 11月30日(土)		
奨励	体育会	よさこい ソーラン風神部	飯倉 菜那 [テ科3]	129名	市区町村からの要請を受け、地域のお祭りやイベント等に積極的に参加して演舞を行っており、地域への貢献が高く、奨励の評価に値する。			
	文化会	アカベラサークル	土屋 昂三 [応化3]	29名	学位記授与式や入学式をはじめ、大学行事で積極的に校歌斉唱などを行っており、また、高齢者施設や習志野市のコミュニティセンターなどからの依頼を受けての活動、他大学との合同での演奏会に参加。			
		鉄道倶楽部	渡邊 大星 [PM3]	29名	各地域団体からの要請を受け、大型鉄道模型による出張試乗会を行っており、地域イベントにおいて非常に人気であり、地域との交流における一翼を担っていることから、文化会所属サークルの模範である。			
		書道倶楽部	砂押 愛華 [テ科3]	35名	第48回全国学生書写書道展、第49回ふれあい書道展(全国)に出展し個人での入賞実績があり、積極的に対外的な活動を行っている。			
		TRPG研究会	増山 創 [経情3]	29名	「船っこ教室(船橋市放課後子供教室)」から要請を受け、小学校が夏休み中の期間、両親が共働き等の児童を対象とした放課後子供教室に出向き、カードゲーム、ボードゲーム等で一緒に遊び、面倒を見るなど、地域への貢献が高い。			

新設「伊藤穰一賞」 課外活動の価値を再認識

1月23日に開催された祝勝・奨励会において、今年度より、新たに「伊藤穰一賞」が新設されました。この賞は、学業に限らず主体的に課外活動に取り組む学生を表彰する制度で、伊藤学長の発案により設立されました。

産業革命以降、教育の場では「与えられた課題を正確にこなす力」が求められてきました。しかし、AIの発展により、現代では「自ら考え、行動する力」がより重要視されています。そのため、自発的に目標を定め、仲間と協力しながら成長する課外

活動の価値が見直されています。こうした背景から、今回「伊藤穰一賞」が新設され、本学の学生が積極的に挑戦し続けることを期待しています。

初年度の実賞者は1年生から4年生まで計37名。受賞者には、NFT形式の表彰状が発行され、グローバルな環境でも証明可能なデジタル記録として活用されます。

また、受賞者の中から選ばれた10名の学生は、3月6日に伊藤学長主催のお茶会に招待される予定です。



当日参加した受賞者らで学長を囲み記念撮影

学 科	受 賞 者
機械工学科	人見 慎太郎(2年) / 大山 圭吾(4年)
機械電子創成工学科	一条 英花・一木 隆我(1年) / 塚村 鍊(2年) / 小川 智大(3年)
先端材料工学科	清水 翔太(1年) / 鈴木 蒼太(4年)
電気電子工学科	菅原 陸(1年) / 郡 英範・有田 大翼(3年)
応用化学科	土屋 昂三(3年)
都市環境工学科	白井 瑛人(2年) / 高橋 理子(3年)
建築学科	天辰 昂平(1年) / 梶田 倭(4年)
デザイン科学科	向井 瑛志(2年) / 飯倉 菜那(3年) / 吉田 佳林(4年)
知能メディア工学科	横山 楓人(1年) / 石川 星夢(2年) / 堂本 蒼太(3年)

学 科	受 賞 者
未来ロボティクス学科	高橋 蒼生・後藤 寛明(2年) / 柏木 勇輝(4年)
情報工学科	田尻 智樹(3年)
情報ネットワーク学科	西島 悠樹(2年) / 鈴木 慧(4年)
認知情報科学科	河野 隼之介・岩崎 竜也・星 棟二郎(1年)
経営情報科学科	中西 凜(2年) / 増山 創(3年)
プロジェクトマネジメント学科	森戸 恵心(3年) / 渡貫 泰政(4年)
金融・経営リスク科学科	阿部 佳奈子(2年)
デジタル変革科学科	鈴木 明輝(1年)

PPA



私が千葉工大に教員として着任してから、早くも2年が経とうとしています。学部から博士課程まで9年間を千葉工大で過ごしましたが、改めて教員という立場から大学を眺めると、学生時代には気づかなかったことが数多くあると痛感しています。とりわけ、学生が勉強や研究、課外活動に集中できるように環境を整えることは、教員としての大切な役割の一つだと感じています。

昨年からはPPA評議員を拝命し、PPAの活動について少しずつ理解を深めてきました。振り返れば、学生時代にはあまり意識していなかったものの、サークルや研究室の合宿でPPA保養所を利用したり、大学院生として学会発表を行う際には旅費の援助を受けたりと、実は多くの支援を受けていたことに気がつきました。千葉工大ではPPAの活動が非常に充実していると実感しており、だからこそ学生への周知やアピールが重要だと改めて思います。

一度本学を卒業し、OB教員として戻ってきた今、これまでの支援に対して改めて感謝するとともに、次は自分が大学に貢献する番だと感じています。

応用化学科 菅根 海人

四季雑感



年が明けて「まだ」2ヶ月と思うのか、「もう」2ヶ月と思うのか。

それぞれ感じ方は違うと思います。何がそう感じさせるのか分かりませんが、私は年々早く感じるようになりました。

早いと言えば、子どもの成長の早さには驚かされる日々。ついこの前まで出来なかったことがある日突然、出来るようになり、嬉しい瞬間に立ち会うこともたくさんあります。

ただ、子育てをしているとそんな嬉しいことばかりではなく、イライラしてつい声を荒げて怒ってしまうこともあります。そのたびに「違うやり方、違う伝え方があったんじゃないか」と反省と後悔をしながら色々なことを子どもから学んでいる気がします。

「子育て」は親が子どもを育て成長させてあげてを言いますが、その反対に親も子どもに育ててもらい、親として、人として成長させてもらっていると感じました。普段学生と接する機会が多い私は学生を通して、学生と一緒に自分自身も人として成長していけたらと思います。

新習志野学生担当 柳田 拓也

編集だより



今年、娘の高校卒業を機に、長年続けてきたお弁当作りも一区切りを迎えます。思い返せば、5歳年上の息子の時は、吹奏楽部がスパルタで、中学でも土日必ず、高校では週7日お弁当が必要。それに比べたら、娘のお弁当作りはだいぶ楽なルーティーンであったかもしれません。小学校では夏休み中の学童で、毎日キャラ弁を作ったりと、明らかに力の入れどころが違う？(笑)。

高校時代は、手作りパンランチや曲げわっぱ弁当、スーパージャイアント弁当など、一緒にお弁当作りを楽しむように。ただ、繁忙期にはどうしても手がまわらず、コンビニでもいい？「ごめん」と思いながらの日々が続くこともしばしば。

4月から、いよいよお弁当作りから解放されるのか…と思いきや、実はなんだか寂しい。

朝早く起きてお弁当を作るのは大変だったけれど、娘の「美味しかったあ」の一言で明日はどうしようかな？とウキウキしたものです。

桜が咲くころに、張り切ってお弁当を作り、家族みんなでお花見を楽しんだりしようかな…そんな風に思う今日この頃。もうすぐ春ですね。

入試広報課 大橋 慶子